

江東区校務 DX 計画

1. 校務 DX 計画の目的

校務 DX 計画は、学校運営の効率化と教職員の業務負担軽減を図るため、今後の江東区における校務 DX 施策の方向性を示すものです。

これまで、江東区教育委員会では、江東区長期計画及び教育推進プラン・江東（第2期）に基づき、教育の ICT 化の取組の一つとして、区立学校における校務の情報化を推進してきました。

令和2年度には、全学校を対象に統合型校務支援システムを導入し、令和6年度には、全中学校及び義務教育学校においてテスト採点支援ツールの活用を開始するとともに、全学校を対象に学校と保護者間の連絡手段を原則としてデジタル化することで教職員がこどもたちと向き合う時間の確保に努めています。

今後も、文部科学省の「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」における提言や「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」、「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に基づく自己点検のフォローアップ結果等をふまえ、校務 DX 施策を推進していきます。

2. 現状の課題と今後の方向性

各種提言等において求められる取組について、以下のとおり実施していきます。

	取 組	現状の課題と方向性	実施・検討時期
1	校務系・学習系データの連携	校務系データと学習系データを円滑に連携させるとともに、民間企業でも広く活用されているダッシュボード（※1）を導入することで、各種データの収集・分析・可視化を実現する。	令和8年度～
2	次世代型校務支援システムの整備	オンプレミス（※2）構成の校務支援システムをクラウド化し、低コストかつリアルタイムな汎用クラウドツール（※3）との連携を図り、教職員の業務負担軽減を図る。	令和8年度～

3	汎用クラウドツールを活用	教職員間の会議や教育委員会とのコミュニケーションにおいて、汎用クラウドツールを積極的に活用することにより、会議資料をペーパーレス化するとともに、情報共有の迅速化・活性化を図る。	令和8年度～
4	FAXでのやり取りの見直し	クラウドツールが活用できる環境下において、FAXの過度な利用は、校務DXを大きく阻害するものとされているため、FAXの適正な利用頻度について検討していく。	令和7年度～
5	押印の見直し	校務DX化において、押印の見直しは重要な課題であり、押印の必要な多くの文書をペーパーレス化するため、関係部署と連携のうえ、段階的な押印の廃止に向け、長期的な視点で検討を進めていく。	令和7年度～
6	不合理な手入力作業の一掃	次世代校務支援システムの活用により、Google Classroomと校務支援システムを連携することや、他のクラウドツールとの連携機能の実装について、システム保守委託事業者と協議を進め、教職員のデータ入力作業を削減していく。	令和8年度～
7	校務LANシステムの現状分析と在り方に関する検討	オンプレミス構成の校務LANシステムについて、汎用クラウドツールを活用できるように、令和7年度の更改において、学校現場の実情に即した要件検討を進め、システム全般をクラウド化し、活用・検証のうえ、区立学校全体を見据えたシステムの在り方を検討する。	令和7年度～

(※1) ダッシュボード: クラウド上やサーバ上に存在する様々なデータを自動的に収集、分析、加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで視覚的に分かりやすく一覧化した画面のこと。

(※2) オンプレミス: システムの稼働や構築に必要なサーバやネットワーク機器、ソフトウェア等を使用者が設置するデータセンター等で運用するシステム利用形式。

(※3) クラウドツール: クラウド上で稼働する製品のことでオンライン会議やスケジュール管理、アンケート等の様々な業務の効率化が期待されます。